

press release

C O L L E C T I O N E X H I B I T I O N

色・形・モチーフ、
この3つから はじめよう

Dissecting Art! Colors, Shapes and Motifs

春の所蔵作品展

三代家永東山（新筆） 1956年 広島県立美術館蔵



美術を解剖！
色・形・モチーフ

2022 4/21 Thu ▶ 7/24 Sun

[閉館時間] 9:00～17:00（金曜日は20:00まで閉館）※入場は閉館の30分前まで

[休館日] 月曜日（ただし5/2、6/13、6/20、7/11、7/18は開館）

[入館料] 一般510(410)円／大学生310(250)円 ※（ ）内は20名以上の団体

[縮景園共通券] 一般610円／大学生350円 ※特別展は別料金

※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。

※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料（1階総合受付でお申し出ください）。



広島県立美術館 2階展示室
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒739-8014 広島県中区上郷町2-22

tel.082-221-6246 fax.082-223-5444

<https://www.hpam.jp/>

【概要】

春の所蔵作品展 美術を解剖！色・形・モチーフ

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。当館は開館以来、多くの方々の御協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

当館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度三回、長きにわたって臨時休館いたしました。この春は再び美術館を楽しんでいただけます。

さて、今期の所蔵作品展では、「ウェルカムギャラリー」と「美術を解剖！色・形・モチーフ」の2本立てで、当館コレクションを紹介します。

まず、昨秋に設置した「ウェルカムギャラリー」では広島ゆかりの代表的作家を取りそろえ、作品を展示替えしました。

続く4つの展示室では、「美術を解剖！色・形・モチーフ」をテーマとして、絵画や工芸作品の「色」と「形」、そして「モチーフ」に注目しつつ、造形芸術の見方や楽しみ方を御紹介します。それぞれ、「モノクロームの世界に注目！マン・レイの写真を中心に」ではモノクローム(白黒、単色)の写真作品を、「色に注目！版画の色、いろいろ。」では作品ごとに異なる役割を担う“色”という要素に注目して、版画という技法の幅広さと奥深さを、「モチーフに注目！花鳥・人物・山水」では描かれている題材に注目して日本画の見方を、「形に注目！用途に即した形と何かを象徴した形」では形と素材を通じて、美術鑑賞のヒントを提案します。新しく登場した「楽しみ方ナビ」とあわせてお楽しみください。

会期中には、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信などの関連イベントも開催して、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。

当館は新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して皆様をお迎えますので、御理解と御協力をお願いします。来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心^{なご}和んでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今年度の所蔵作品展にも御期待ください。

【第1展示室】モノクロームの世界に注目！マン・レイの写真を中心に

見どころ：白と黒の世界にある豊かな階調

「美術を解剖！色・形・モチーフ」をテーマの最初として、この展示室ではモノクローム(白黒、単色)の作品に着目して、ダダイスムやシュルレアリスムといった前衛運動に携わったマン・レイによる写真作品を中心に紹介します。

写真といえば、今日、多くの方が色鮮やかなカラー写真を想像されると思いますが、モノクロ(白黒)写真については、どういったイメージを想起されるでしょうか。光の強弱のみによって表現されるモノクロ写真は、ときに幻想的ともいえる雰囲気を生み出します。

マン・レイにとって、写真は生活の糧を得るために始めた仕事で、必ずしも自分の本職とは思っていなかったといいますが、同時代の人々や作品を撮影した彼の写真作品は、時代を捉えた記録という側面だけでなく、写真ならではの優れた表現を見ることができます。それは、「光の人」＝マン・レイが生み出したというソラリゼーション(レイヨグラフ)の技法にも表れています。

また、マン・レイの代表的な写真作品《黒と白》は、モノクロームならではの作例といえます。その階調の美しさ、構成の妙、静謐な雰囲気などをお楽しみください。

そして、3階の特別展示室では5月29日(日)まで「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」を開催しており、同展の出品作家の作品も併せて御覧いただけます。例えば、ワシリー・カンディンスキーの作品《小さな世界》は、無彩色の版画作品にも関わらず、そこには色を感じることができるのではないのでしょうか。それぞれの作家が生きた時代に思いを馳せながら、モノクロームの世界をお楽しみください。

【第2展示室】色に注目！版画の色、いろいろ。

見どころ：限られた色が生み出す豊かな表現

この展示室では、作品ごとに異なる役割を担う“色”という要素に注目して、版画という技法の幅広さと奥深さを紹介します。

多くの人は、ただ“〇〇色”と聞くと、色紙のように、平板な色を連想するのではないのでしょうか。その一方で、何かの情報を伝えるとき「〇〇色の□□」という風に、そのものの特徴となる形や材質感も一体のものとなった記憶が蘇っているのではないのでしょうか。美術にとっては、特に、こうした材質と色の関係や、色と色の関係が大きな役割を担っています。

広島県出身で彫刻家でもある水船六洲^{みづふね ろくしゅう}の版画は、普通の版画と違い、最初に画面全体を黒く刷った後に色版を重ねていくという独特の手法で制作されるため、黒に負けないように刷り重ねられた絵の具の層が大変厚く、デコボコとした材質感を伴う独特の発色を見せます。今年は水船六洲の生誕110年の節目に当たることもあり、水船の作品を中心に、吉田博^{よしだ ひろし}や川瀬巴水^{かわせ はすい}といった新版画の作家、すなわち現代的な画題を伝統的な浮世絵の技法で、職人の手を借りながら作品化している作家や、菅井汲^{すがい いくみ}のように、原画だけを自分が描き、版画化は版画工房の職人に任せるタイプの作家まで、作家ごとに異なる制作スタイルを紹介します。また、木版画や石版画、シルクスクリーンやエッチングといった技法の違いによって生じる特徴も合わせ、版画ならではの豊かな色彩の世界を紹介します。



水船六洲 《朱い実》1969年

【第3展示室】モチーフに注目！花鳥・人物・山水 見どころ：モチーフに込められた意味を知る

この展示室では、描かれている題材、つまりモチーフに注目して日本画の見方を紹介します。

モチーフ(motif)とは、フランス語で動機やテーマ、理由等を意味する言葉です。文学や音楽でも用いられますが、美術の場合は一般的に絵画作品などにおける題材を指します。

日本画における主たる題材は、花鳥・人物・山水です。それぞれ、花鳥画・人物画・山水画と呼ばれます。

花鳥画は、花や鳥を主としてさまざまな動植物を描きます。見た目の美しさは勿論ですが、縁起の良いとされる動植物を描くことで、吉祥への願いを込めるのが東洋絵画の伝統です。

人物画は、仏教や歴史上の人物、物語の中の登場人物や特定の人をモデルにしたものなど、さまざまな人を描くことに重心をおいた絵画です。

山水画という言い方は近世までのもので、近代以降は風景画と呼ばれています。実際の景色を見て描くというより、画家の胸中にある理想郷を描く点に日本画を含む東洋絵画の特徴があります。

描かれたモチーフを知っていると、絵の意味が読み取りやすくなるだけでなく、画家がその絵に込めた思いを感じることができます。もともと、「モチーフ」という言葉はラテン語の「動かす」という意味に由来しています。題材を知るとは、画家が制作する際の動機となった心を知ることにつながっているのです。



金島桂華 《牡丹》1948年

【第4展示室】形に注目！用途に即した形と何かを象徴した形 見どころ：ひとつの作品にいくつもの形を発見

この展示室では、形に注目して工芸の見方を紹介します。

工芸作品の形の現れ方はさまざまです。用途に即した形もあれば、何かを象徴した形もあります。また、輪郭として表現される平面作品の形とは違い、工芸作品の形は見る人の視点によって変化するものも少なくありません。

富本憲吉《白磁壺》、加守田章二《曲線彫文扁壺》などは、作品名に「壺」とあるように、用途に即した形といえるでしょう。ただし同じ壺でもその形は一樣ではなく、それぞれの作家がそれぞれの方法で形と向き合っているのがわかります。

田中守信《原風景》などは、あるものを象徴した形です。作品をじっくりと御覧いただき、何を象徴的に表現した形なのか考えたあと、よければ解説を読んでみてください。



宮永理吉《断層》1956年

林康夫《緑の滴》などは、上から見るか、横から見るか、視点を変えると表情もガラッと変わる形の作品です。

もちろん、「用途に即した形」かつ「何かを象徴した形」などハイブリッドタイプも存在します。また、工芸にとって形を作る上で欠かせない要素が素材の特性です。素材を活かした形にもご注目いただきながら、さまざまな工芸の形をお楽しみください。

【ウェルカムギャラリー

これが、県美の広島愛。】

昨秋、リニューアルオープン25周年を記念して、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。当館の顔ともいえる大理石に囲まれた展示室で、当館の成り立ちを紹介する動画とともに、美術への関心の度合いに応じて選べる作品解説を御用意しました。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。

第1回目の展示となる本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家の小林千古・南薫造・霰光、日本画家の児玉希望・奥田元栄・平山郁夫、彫刻家の平櫛田中・圓鏑勝三、工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々を御覧ください。

また、1階ロビーでは画家・菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場を御用意しています。

美術が好きの方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。

「最後の広島藩主」の威風を伝えた 平櫛田中(彫刻家) 奥田元栄(日本画家)

疎開した故郷で風景に目覚めて 平山郁夫(洋画家)

アメリカで見つけた夢 「移民県」広島から 故郷の友と競って拓いた 菅井汲(画家)

被爆体験から 故郷の山河に涙する 平山郁夫(洋画家)

このが、県美の広島愛。 弘教の源流、シルクロードへ 六角紫水

広島県人に 広島の想いを人形に託して 平山郁夫(洋画家)

瀬戸内海の 巖島神社の 社殿を 朱に戻す 六角紫水

2021年11月9日

ウェルカムギャラリー誕生

広島県立美術館が所蔵する広島を代表する作家の作品を一堂に展示します。

【開催期間】9:00~17:00(最終日は19:00まで開館) ※入館無料(別途有料)

【休館日】日曜日 ※休館日(11月14日) 11月15日(祝日) 11月16日(祝日)

【入館料】一般500円(中学生以下半額250円) 小学生以下半額125円

【観覧時間】一般50分、小学生以下30分 ※観覧時間終了後は、1階ロビーで展示された作品を御覧いただけます。

【観覧料】1人500円、小学生以下半額250円

【観覧時間】11月9日(日) 9:00~17:00(最終日は19:00まで開館)

【観覧料】1人500円、小学生以下半額250円

【観覧時間】11月9日(日) 9:00~17:00(最終日は19:00まで開館)

【観覧料】1人500円、小学生以下半額250円

ウェルカムギャラリーは所蔵作品の入場料でご利用いただけます。

広島県立美術館 Hiroshima Prefectural Art Museum



【配付物】

展示室それぞれの見どころを端的に紹介する「楽しみ方ナビ」(A4サイズ1枚/無料)を新規に作成しました。



【関連イベント】

■ リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式でご紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時：① 美術を解剖！色に注目(西洋美術・日本洋画) 2022年4月22日(金) 15:00～15:45

② 美術を解剖！モチーフと形に注目(日本画・工芸) 2022年5月20日(金) 15:00～15:45

場所：2階 展示室

講師：①角田 新(当館主任学芸員)、山下 寿水(当館主任学芸員)

②神内 有理(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)

定員：14名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】※要入館券。会場入り口でお待ちください。

■ 対話型鑑賞

春の所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなで話しながらか鑑賞します。

(機材や接続環境、Zoomの操作につきましては、各自でご準備をお願いします。)

日時：① 2022年4月23日(土) 14:00～

② 2022年5月28日(土) 10:00～

ナビゲーター：森 万由子(当館学芸員)、岡地 智子(当館学芸員)

参加方法：① 2階 展示室(ワイヤレスガイド使用) ※要入館券。会場入り口でお待ちください。

② オンライン(Zoom)

定員：① 14名 ※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

② 6名 ※要事前申込 以下のフォームからお申込みください。

<https://forms.gle/XdAPzBVbN8UdH2QUA>



申込フォーム

■ インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。

テーマ：ウェルカムギャラリー(洋画・日本画)

日時：2022年6月21日(火) 17:00～

講師：藤崎 綾(当館主任学芸員)、隅川 明宏(当館主任学芸員)



公式インスタグラム

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。御了承ください。

◎御来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

■次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。

・発熱や軽度であっても咳、のどの痛みなどの症状がある方

■御協力をお願い

・マスクの正しい着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット

・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。

・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。

・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroema2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる